

裁之上法、道之裁決、成之、外無之、口御、  
水指、合案、調停之裁、也

水指合案

何、之、趣、ハ、民、業、ニ、係、ル、ハ、見、込、リ、以、テ、お、違、フ、  
方、法、ハ、河、申、出、ッ、ハ、シ

明治十八年一月廿七日

法地

第一局

第四拾九號

四日市線鑛道布設之義

二付伺

四日市線鑛道私設之義、別紙甲號

之通願書、差出候、處、右ニ對シ、乙

号ノ如ク、鑛道局長、意見申出

候ニ付、篤ト、熟考候、處、同、局長、意

見之、趣、旨、至、當、之、義、ト、存、候、ニ、付

官設之義ニ、御決定相成、至、急

起工之御下、命有之、處、仍、テ、甲

乙書類相添、此段相伺候也

明治十七年五月二日

甲五二

工部卿佐々木高行

太政大臣三條實美殿

伺、類官設起工儀、閣届候條其  
経費ハ中仙道線建案費ノ中、以  
支辨ル儀ト心得、工事ニ着手スベ

明治十七年五月八日

三重縣下人民ヨリ出願、候民設、鑛道布設ノ儀  
熟考、候處、四日市ヨリ美濃國垂井、至ルノ  
線路ハ、西ハ京阪神戸ヨリ西北ハ、越前敦賀港ニ  
通スル、既成ノ官設、鑛道ニ聯絡シテ、其、缺線  
ヲ補フ者ニシテ、此線布設ノ功ヲ奏スル以上ハ、  
既成、鑛道ノ、効用ヲ益ス、事實ニ著シク、其、現  
今ノ、狀況ニ、陪、徒スヘキハ、疑フ所ニ、非ス、且ツ、中  
仙道、鑛道布設ニ、要スル、物品、材料、運搬ノ  
便ヲ、與フル、甚タ、大ナルニ、依リ、該線、工事ノ、會  
計上ニ、許、多ノ、利益ヲ、得ル、事亦、隨テ、相伴フ  
可ク、畢竟スルニ、目下、必要ノ、線路、十九ヲ、以テ、人  
民ノ、私設ヲ、待タス、寧、口、官府ニ、於テ、決、然、着

手相成候方得策ト存候又其費用ノ点ニ至  
リテモ中仙道線建築費用ノ一部ヲ以テ之  
ニ充テ候共前述物品運搬ノ便宜ヲ得ルカ  
為省節スル所ノ額ヲ以テ彼此相償フ可キ  
ニヨリ好シ此線ヲ加フルモ中仙道鐵道公債  
ヲ以テ募集セル資金額ヲ超過シ更ニ補  
填ヲ仰ク等ノ事ハ萬有之間敷ト被存候  
ニ付此議抑允可相成候ハ此線ニ向ヒテ幹  
線支線ノ差別ヲ置キ官設民設ノ鐵道ヲ  
分チ候ニ不及處分方簡易ニシテ民設會社  
ノ通弊ナク紛擾ヲ醸成候憂ニ無之十全ノ策  
ト存候抑幹線支線ト云フヲ以テ鐵道ヲ  
類別致シ候儀ハ唯文字上ノ差アルノミニテ

其實際ニ於テハ當者ノ分路ニ苦シム事少ナカラ  
ス之ヲ例スルニ各鐵道線路ノ中鑛山産物  
ヲ運輸スル為ノニ山中ニ布設スル者或ハ  
懸隔セル一地方ニ於テ建築スル者ヲ除ク  
ノ外ハ一方ヨリ見テ支線ト稱ス可キモ他方  
ヨリ見レハ却テ純子タル幹線ノ性格ヲ呈  
スル者アリ即チ此ノ四日市線タル中仙道  
線ヨリ觀ル時ハ本線ヨリ岐分シテ四日市  
港ニ達スル一支線タルモ敦賀四日市ノ兩  
港ヲ連接スル一点ニ就キテ之ヲ觀レハ正シ  
ク幹線ノ性格ヲ有セリ故ニ今徒ラニ幹  
支ノ名義ニ依リテ願意ノ許否ヲ判セシヨ  
リハ寧口上陳ノ如クニ官設ニ相成候方至

當ト相考候若シ又右ノ意見ニシテ結局却採  
可不相成義ニ候ハ、不得已次第ニ付別紙三  
重縣下人民出願ノ趣却允可相成度尤モ其  
願書ニ添ヘタル書面ノ如ク社則定款等ヲ設ケ  
會社ヲ創立シ營業ヲ掌管シ而テ其建築事  
業ハ之ヲ工部省ニ依頼スル事ニ至リテハ遽カニ  
其請ニ應シ難ク候其故他ナシ方今各地方  
ニ於テ民設鑛道ヲ企ル者比々トシテ出ツ是  
等皆工事ヲ工部省ニ依頼セントスル者ナリ然  
ルニ隔遠區々ノ地方ニ於テ僅々四五里或ハ二  
十里前後ノ建築事業ヲ負擔處辦スルハ  
頗ル繁雜ノ事業ニシテ我鑛道局ノ能ク堪  
ユル所ニ非ス且人民設立ノ會社ハ紛擾ヲ養

生スル源淵ニシテ鑛道事業ノ實際ニ益ナキハ經  
驗上熟知スル所ニ有之依テ三重縣下人民ノ願  
意ニ對シ只人民ニ於テ資金募集ノ儀ノミヲ  
許可相成該資金ハ之ヲ官府ニ收メ線路建築  
ノ用ニ供シ機關車列車等ハ官線ニ使用スル者  
ヲ流用シ而テ營業機務ハ皆官府ニ於テ擔  
當シ利益ハ線路建築費ト車輛費トノ割  
合ヲ以テ官民ノ間ニ配當スルノ方法ヲ設ケ候  
事ト相成候ハ、左迄ノ差支ハ有之間敷耶  
假例ハ線路費ハ四十萬圓車輛費八十萬  
圓トシ利益金五萬圓ナル時ハ其五分ノ一即  
壹萬圓ヲ官府ニ收メ五分ノ四即チ四萬圓  
ヲ出金者ニ配當スルノ算法ニテ其實出金者

ノ為メニハ會社ヲ設立シテ營業スルト毫モ異  
ナルヲ無ク且ツ工ヲ起スノ初ニ於テ車輛賞  
ヲ要セサレハ幾分カ資本ノ根額ヲ減節スル  
ヲ得又官府ニ於テハ鍊道直轄ノ實アリテ  
稍ヤ紛擾ノ患ヲ將來ニ防クヲ得ヘシ而シテ  
右等ノ場合ニ於テハ出金者ノ信用ヲ重クスル  
為メ營業帳簿檢査ノ事ハ之ヲ出金者ニ  
許サルヲ得ス雖然右ノ方案ハ勿論事實不  
得止ノ秋ニ具フルモ盡ナルヲ以テ固ヨリ完全  
無缺ナルヲ証シ難シ故ニ前陳卑見ノ通り  
四日市線ハ断然官設ト決定セラレ速ニ起工  
ノ下命相成候ヲ以テ於小官ハ萬全ノ策ト考  
按致候ニ付此段意見上申候也

明治十七年五月二日

井上鍊道局長

佐々木工部卿殿

局進第七号

伊勢國四日市美濃國垂井間鉄道  
敷設ノ儀ニ付伺

伊勢國四日市美濃國関ヶ原間鉄道  
敷設ノ儀ニ付客年十二月中内務卿  
相伺其御指令ノ趣ニ有之被  
般地方及「京阪」有志者諸戸清六  
外四指九名發起トナリ一ノ鉄道會社  
ヲ組織シ伊勢國四日市美濃國垂  
井間鉄道敷設ノ儀別紙ニ通願  
出候抑テ四日市ニ於ケル東ハ横濱港  
南ハ神戸戸港ノ中央ニ位シ樞要ノ良  
港タルハ旅客ノ往復須物ノ出入夥多

ナラフ以テ知ルヘキナリ。爰ヲ以テ數年前ヨリ三菱會社汽船ノ定期航行ヲ創メ共同運輸會社其他ノ汽船風帆船等出入スルモノモ亦鮮シトセス海運ノ業漸ク將ニ盛ナラントス然リ而シテ會々長濱ヲ開ケシヨリ四日市、桂濱ニ至ル旅客物價ノ數ハ日ニ月ニ多キヲ加ヘタリ今ニシテ業ニ已ニ如此況ンヤ越前敷原ヨリ近江長濱ヲ經テ美濃大垣ニ至ルノ鐵道モ亦其後功遠キニアラサルヘシ然レ則今四日市、垂井間ニ鐵路ヲ開キ海陸ヲシテ接續セシメ以テ一層運輸ノ便益ヲ計畫スルハ果

モ緊要ノ事ニ有之今ヤ發起者ニ於テ非常ノ奮發ヲ爲シ巨額ノ金員ヲ各自ニ負擔シ錢之敷設ノ儀ヲ請願セシハ實ニ一大義舉ニシテ獨リ運輸ノ便益ヲ得ルノミナラス自ラ萬般ノ民業ヲ將ニ振起スルハ必然ノ事ニ有之且又發起者ハ孰シモ身元確實ニシテ結社方法及ビ株金募集ノ順序等完全具備シ其成業ノ見認充分ニ有之尚且ツ該件御裁可事業ヲ爲成ノ上ハ尋テ四日市、桂濱ノ事業ヲモ舉行スルノ意見ニシテ大ニ自他ノ獎勵トモ相成候條前陳ノ情狀深ク御諒察連ニ御裁可相

本度其敷設ノ方法并ニ該社へ下付之ハ  
 申命令書等ニ至テハ本願即允許ノ  
 上夫々取調更ニ御指揮ヲ申候様  
 可致心得ニ有之依テ別紙願書等ニ  
 略圖及ニ該社規則書ヲ添付此段相  
 伺候也

明治十七年四月十日 三重縣令岩部定高

工部卿佐々木高行殿

願書



錢道布設願書

伊勢國四日市港ハ從來旅客物貨輻輳ノ土地  
十九ヲ以テ海運ノ便日ニ月ニ増進シ加之  
濃州閩ヶ原迄ノ錢道落成以降江越加  
濃飛等ノ國々ヨリ東京九往返スル旅客  
物貨ノ幸港ヲ經過スル漸ク昌盛ニ向ヒ  
殊ニ今般梁ヶ瀬ノ隧道ヲ開通シ不日ニ  
敷賀ヘノ汽車運轉ヲ開クニ至ルハ  
ケリ果シテ然ラハ爰ニ層ノ頻繁ヲ加フルハ  
必然ノ儀ト奉存惟然ニ本港ト閩ヶ原トノ  
間ハ依然トシテ小船ヲ楫斐川ノ淺瀬ニ掉  
シ旅客物貨ヲ運送スルヲ以テ常ニ遷延

遲緩ノ憾ミアルノミナラズ一朝風雨大水等ノ  
 節ハ為メニ日ヲ空フスル一又少シトセズ物貨  
 ノ運搬ヲ流滞シ行旅ノ往來ヲ不便ナ  
 ラシムルハ實ニ國家經濟ノ要旨ニ悖戾致  
 シ候ニ付此度私共發起ヲ以テ鐵道會社  
 ヲ組織シ四日市垂井間ニ鐵道支線ヲ  
 布設シ以テ官線ニ接續シテ物貨行旅  
 ノ暢達ヲ得候様仕度奉存候就テハ  
 前陳ノ實況厚御諒察ノ上速ニ願意  
 御聽容被成下併セテ副線ニ副願仕  
 候所ノ條件法特許致成下度候依テ  
 別紙御特許願書會社定款及圖面  
 相副此段奉懇願候也

三重縣伊勢國桑名郡桑名  
 馬所十三番地  
 士族

明治十七年四月五日  
 發起人 佐藤義一郎

同縣同國同郡同所  
 十五番地  
 平民

同 諸戸 清六

同縣同國同郡同所  
 廿四番地  
 平民

同 木村 誓太郎

同縣同國三重郡濱田村

四指四番地 平氏

同 三輪 猶作

同縣同國三重郡四日市川原所

卅三番地 平氏

同 山本 傳四郎

同縣同國同郡四日市中納屋所

五十二番地 平氏

同 九 鬼 紋 七

同縣同國同郡四日市下新所

廿三番地 平氏

同 森 寺 加 壽

同縣同國同郡四日市濱所

十二番地 平氏

同 田中 武兵衛

同縣同國同郡四日市南納屋所

十一番地 平氏

同 吉田 伊兵衛

同縣同國同郡四日市中納屋所

三番地 平氏

同 稻葉三右工門

同 同縣同國同郡月永村  
廿六番地 士族

同 松岡忠四郎

同 同縣同國同郡室山村  
十番地 平民

同 伊藤傳七

同 同縣同國同郡日村  
三十五番地 平民

同 伊藤小左工門

同 同縣同國同郡桑名郡桑名魚所  
吉野島 士族

同 西村徳右工門

同 同縣同國同郡桑名片所  
四十三番地 平民

同 加藤治郎七

同 同縣同國同郡桑名郡馬所  
十八番地 平民

同 下里 貞吉

同 同縣同國同郡桑名北所

三書地平民  
同 二井 與吉

同縣同國同郡素名弘馬所  
十三書地平民

同 梶村 保壽

同縣同國朝明郡豊田一色村  
一書地 平民

同 大塚八郎兵衛

同縣同國安濃郡津極堂所  
貳百七十七書地平民

同 後藤仁兵衛

岐阜縣美濃國下石津郡高須所  
三書地平民

同 吉田 耕平

淡賀縣近江國丹波郡小田新村  
四十書地 平民

同 小林 吟右工門  
代理 小林 吟次郎

同縣同國神守郡能登川村  
同 阿部 市郎兵衛

代理小林吟次郎

同縣日國日野日所  
阿部市右郎

代理小林吟次郎

同縣日國滋賀郡大津白玉所四  
十八番地年氏

同 森彌三郎

代理三輪猶作

京都府上區第廿八組役行者  
所三百六十番地年氏

同 阿部彦太郎

代理小林吟次郎

同為下京區第拾八組徳万所  
日 高本文平

代理三輪猶作

大坂府東區高藏橋通幸丁自  
幸寺地

同 藤田傳三郎

代理流澤栄一

東京府南區本所廿八番地

同 林 賢 徳

同 府 深 川 區 西 工 所  
十 五 畝 地

同 三 野 村 利 助

同 府 日 區 清 任 所 十 四 畝 地

同 本 却 正 幹

同 府 芝 區 芝 公 園 地 五 十 九 号  
同 堀 基

代 遠 武 秀 行

同 府 荏 原 郡 畠 川 宿

三 百 拾 五 畝 地

同 益 田 孝

同 府 南 葛 飾 郡 小 梅 村

七 拾 七 畝 地

同 小 室 信 夫

同 府 日 本 橋 區 本 枝 本 所

三 百 二 畝 地

同 久 原 左 三 郎

同 府 志 務 區 銀 五 三 丁 目

七番地

同 大倉喜八郎

同 府津川區萬年所

五番地

同 洗澤喜作

同 府津川區千年所

四十六番地

同 川崎八右衛門

同 府津川區駿河臺北甲賀

所四番地

同 西村常四郎

滋賀縣近江國神壽郡

川並却

同 塚本定右衛門

代印塚本定次郎

東京府赤穂區銀堂四丁目

五番地

同 森村市右郎

同 府津川區濱松所 三丁目五番地

同 子安 峻



同府京橋區築地三丁目  
廿五番地

同 川崎 正藏

同府日區築地三丁目  
番地 原 六郎

同府日本橋區小網町  
四丁目  
番地

同 安田善四郎

大坂府南區鱧谷東町  
同 廣瀬 幸平

代印 流澤 栄一

同府東區中ノ嶋四丁目  
同 外山 修造

代印 流澤 栄一

同府日區平野町四丁目  
十三番地

同 松本 重太郎  
代印 流澤 栄一

東京府深川區福住町  
四番地

同 沼澤 榮一

同 存菊町區水田町二丁目  
十五番地

同 吉井 友實  
代印 林賢徳

三重縣令岩村定高啟

前書之通願出候事與印進達仕  
候也

明治十七年四月五日

三重縣伊勢國三重郡四日市市長

堀本 忠良

副  
願  
書

特許請願ノ件

一 官有ノ土地家屋ニシテ鉄道線路ニ当

ルモノ及ビ鉄道ニ必要ナル倉庫停車場

塲等ニ供用ス可キモノハ無償ニテ御賃

與被成下産事

一 民有ノ土地家屋ニシテ前項ノ用ニ供

ス可キモノハ公用土地買上規則ニ據テ

政府之ヲ御買上之上更ニ當會社へ

御拂下被成下産事

一 鉄道及ビ之ニ屬スル一切ノ土地ハ其租

税ヲ免除被成下産事

一 鉄道建築ノ為メ旧来ノ道路橋梁溝

渠河川等ヲ他所ニ移置シ或ハ一時他所ニ  
 架設セザルヲ得ザル時ハ之ニ関スル公私所有  
 ノ土地家屋ハ前第一項第二項ノ例ニ準  
 シ所処置被成下度事  
 一 鐵道用ノ馬ノ電線架設ヲ要スル時ハ政府  
 ノ設備ニ係ル電信架柱ノ一部分ヲ借  
 用准義強許可被成下度事  
 一 鐵道建築ノ工事ハ工部省鐵道局ニ於  
 テ御管理被成下度事  
 右之件ハ所允許被成下度准此段副領  
 仕候也

明治十七年四月五日

東京府深川區福住所  
 四富地

發起人總代 浩澤榮一

同府南葛飾郡小梅村七十  
七番地

同 小室信夫  
代印浩澤榮一

同 同府麻布区東町廿八番地  
林賢徳

同 三重縣伊賀國桑名郡桑名  
形馬所十三番地士族  
佐藤義一郎

同縣同團員弁郡北大社部  
廿四番地平民

同 木村 権吉 左郎

同縣同團三重郡濱田村  
四十四番地平民

同 三輪 猶作

同縣同團幸名郡幸名馬所  
十五番地平民

同 清六  
或印佐五義一郎

濃勢鐵道會社定款

濃勢鑄道會社定款  
政府ノ允許ヲ得テ運輸ノ公益及ニ株主  
ノ利益ヲ謀リ鑄道會社ヲ創立スル為メ  
其發行人協議ノ上決定スル處ノ定款左  
ノ如シ

第一章 総則

第一條 本社ハ伊勢國四日市ヨリ美濃國  
垂井迄鑄道ヲ建築シ運輸ノ業ヲ  
営ムヲ以テ目的トス

第二條 本社ハ濃勢鑄道會社ト稱ス  
ベシ

第三條 本社ノ事務所ハ伊勢國四日市  
ニ設置スベシ

第四條 本社ハ總テ政府ヨリ下附セラル、

命令書ノ旨意ヲ遵奉履行スベシ

第五條 本社ノ責任ハ有限トス故ニ會社

ニ損失又ハ他ノ事故アリテ閉鎖分

散スルコトアリト雖モ株主ハ其株金ヲ

損失スルニ止マル者トス

第六條 本社營業ノ期限ハ開業ノ日ヨ

リ向九十九年トス

但シ満期ニ至リ株主ノ協議ニヨリ

政府ノ許可ヲ得テ猶繼續スルコト

ルヘシ

第七條 本社ノ資本金ハ錢道ヲ建築シ

得ヘキ經費ヲ概算シテ百五十萬圓ト

ナシ之ヲ壹萬五千株ニ分チ壹株ヲ百

圓トス

但シ工事ノ都合ニヨリ株金ノ増

減ヲ要スル中ハ總會ノ決議ヲ經テ

審分スルコトアルヘシ

第八條 何人タリモ外國人ヲ除ク外一本

社ノ規則ヲ遵守シ其株式ヲ引受タ

ル者ハ都テ本社ノ株主タルヲ得尤モ

一人ニテ幾株所有スルモ妨ケナシ

第九條 本社ノ營業ハ總テ此定款ニヨリ

社長取締役ニ委任スヘシ

第十條 錢道建築ノ工事ハ政府ノ允許

ヲ得タル月ヨリ六ヶ月以内ニ着手シ滿



十五ヶ月ニ落成セシムルモノトス

第二章 株式及ニ株金募集之事

第十二條

株主タル者ハ其引請タル株式金額ニ應シ株式券状ヲ領受シ其所有タル株高ノ割合ヲ以テ本社ノ財産所有者トナリ利益金ノ配當ヲ受ル者トス

第十三條 本社ノ株式券状ハ社長理事記名捺印ノ上左ノ如キ株式券状ヲ相渡スモノトス

此株式券状ヲ賣却

第何号

有限濃勢鉄道會社株式券状

志株金百円

譲与セシ  
ト欲セハ  
當會社へ  
持参スハ  
シ當會社  
ニ於テハ  
至當ノ檢  
査ヲ遂ケ  
此券状裏面  
ノ梓内へ社長  
事記名調印シ  
テ之ヲ差戻スヘシ

何縣何國何郡何村何番地何  
某殿儀濃勢鉄道會社定款ヲ  
確守シ明治 年 月 日ヨリ我  
濃勢鉄道會社株式券状ノ内  
百円即チ一株ノ持主タル  
相違ナキ証據トシテ此株式  
券状ニ當會社ノ印章ヲ押捺  
シ交附スル者也

明治 年 月 日

濃勢鉄道會社  
社長 何某印  
理事 何某印

裏面

年号 月 日  
 賣渡人記名調印  
 買受人記名調印  
 社長記名調印  
 理事記名調印

第十三條 本社ノ株式ハ本社ノ簿冊ニ引

合セタル上賣買譲与スルヲ得ヘシ

尤モ其株式券状ノ昏換ヲ為サハル

片ハ本社ヨリ割渡ス可キ利益金ハ

其株式券状ノ名前人ニ渡ス可シ

第十四條 株金拂込ハ工事ノ都合ニ依

リ時々會社ヨリ報告スヘシ

但報告ハ必ス期日三十日前ニ於テス

ヘク且一回ノ拂込高ハ二割ヲ超エヘ

カラス

第十五條 毎回株金拂込ノ期月ヲ怠ル

者ハ其怠リタル日數丈ケ金員ニ志シ

利息制限法ノ利子ヲ払ハシム可シ若

シ拂込ノ期日ヨリ滿三ヶ月ヲ經ルモ

入金セサル時ハ會社ハ他ニ其株ノ引

受人ヲ定メ既ニ拂込タル金額ハ無利

息豫リ金トシテ會社ニ保管シ置キ

他日本人ヨリ証書ヲ持参セハ之ト引

換ニ返附スヘシ

但他ニ引受人ヲ求ムルニ際シ拂込

金ニ損失ヲ生スルモ本人ノ負擔トス

ル可シ

第十六條 株主申若シ株券又ハ株金拂  
込請取證書ヲ紛失シ其代券ヲ請フ片  
ハ確實ナル保証人二名以上連署ノ証  
書ヲ以テ其理由ヲ証明セシノ更ニ株  
券又ハ請取証各ヲ交附スヘキモノト  
ス

第十七條 毎季ノ利益金配當ノ際ニ於  
テ八日数三十日以内株券ノ扨換ヲ停  
止スル者トス

第三章 計算報告ノ事

第十八條 本社ノ總勘定ハ一ヶ年ヲ分  
チ一月ヨリ六月迄ヲ前季トシ七月ヨリ

十二月迄ヲ後季トシ毎年一月七月  
兩度ニ於テ六ヶ月間ノ出納ヲ精算シ  
毎季ノ定式總會ニ於テ之ヲ報告ス其  
總收入金ノ内ヨリ營業一切ノ諸費ヲ  
引去リタル余金ヲ以テ會社積立金役  
員賞与金株主配當金ノ割合ヲ定ム可  
シ

但建議中ハ各ヶ年ヲ通シテ其精  
算ヲナスコト有ヘシ

第四章 役員及權限ノ事

第十九條 本社ノ重立タル役員ハ左ノ

如シ

取締役三名以上五名以下

第二十条 社長姓名 理事一名若クハ二名  
取締役ハ 總會ニ於テ三拾株  
以上ヲ所有スル株  
立中ヨリ記名投票  
ヲ以テ之ヲ撰擧ス

但創立ノ際ハ本條ニ照ラシ發起人  
ニテ之ヲ撰擧スヘシ

第二十一条 社長理事ハ取締中ノ互撰  
ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十二条 社長理事取締役ハ二ヶ年  
ヲ以テ任期トナシ二ヶ年毎ニ之ヲ  
更撰スヘシ尤モ公撰ヲ以テ重任ス  
ルモ妨ケナシ

第二十三条 社長理事事故有テ退職  
スル中ハ第二十条ニ依リ取  
締役中ヨリ之ヲ撰擧シ又取締  
役欠負アル中ハ次ノ總會ヲ開ク  
迄取締役ノ衆議ヲ以テ補充スル  
ヲ得

第二十四条 社長取締役ハ本社營業ニ  
必要ナル役員ヲ便宜僱雇スヘシ

第二十五条 社長ノ職務ハ政府ノ命令  
總會ノ決議及取締役會議ニ於テ定  
メタル規則ヲ施行スルノ權ヲ有シ  
本社一切ノ事務ヲ調理スルノ責ニ  
任スル者トス

第二十六條 理事ノ職務ハ社長ヲ補佐シ社長事故アル中ハ其代理者タルヘシ

第二十七條 取締役ノ職務ハ本社一切ノ業務ヲ勘査シ社長以下役員ノ行為ヲ監督スル者トス

第二十八條 取締役會議ハ少クモ毎月一回以上本社ニ集會シ又社長ノ求メテ因テ臨時ニ集會スルモノトス而シテ其議長ハ社長或ハ理事之ニ任ス會

議ハ議長之ヲ決ス從ヒ可否同教ナル片ハ議長之ヲ決ス

第二十九條 前條ノ會議ニ於テハ本社

ノ規則中總會ノ決議ヲ要スルノ明文ナキ細則ヲ議定スルヲ得

第三十條 本社ノ營業ニ必用ナル章程規則及役員給与定則等ハ取締役會議ニ於テス

第三十一條 社長理事取締役ハ在任中其所有株ノ内三十株ノ株式券狀ヲ本社ニ預ケ禁授受ノ三字ヲ附シタル預リ証書ヲ受取置キ在任中

之ヲ引出スルヲ得ス

第五章 總會及議事ノ事  
第三十二條 總會ハ十株以上ヲ所有スル株主ノ集會ニシテ之ヲ定式臨時

ノ二種ナシ

第三十三條 定式總會ハ社長ノ定メタ  
ル日時場所ニ於テ毎年一月七月ニ  
之ヲ開ク可シ

第三十四條 臨時總會ハ社長取締役ノ  
協議或ハ取締役三分ノ二以上ノ衆  
議ヲ以テ適當ナリト思考スルニ於  
テハ何時ニテモ其招集ヲナスヲ得  
ヘシ又株主三十名株高資本金ノ三  
分ノ一以上ニ充ツルノ同意ヲ以テ  
臨時總會ノ請求ヲナスニ於テハ其  
總會ヲ要スル事件目的ヲ記載シタ  
ル請求書ヲ本社へ受領シ總會ノ招

集ヲ為ス可シ若シ社長此請求書  
ヲ落手シタル日ヨリ三週間内ニ  
招集ノ手續ヲ為サハ其請求  
人等自身ニ總會ノ招集ヲ為スヲ得  
ヘシ

但臨時總會ノ議案ハ本社ヨリ發  
布スヘシ

第三十五條 左ニ掲クル條款ハ總會ノ  
之ヲ議決スルノ權アル者トス

第一款 會社ヲ存廢スル事

第二款 株數ヲ増減スル事

第三款 定款ノ條件ヲ變更増減

スル事

第四款 取締役ヲ撰舉罷免シ社長理事取締役ノ給料ヲ定ムル事

八事

第五款 本社積立金役員賞与金株主配当金ノ額ヲ定ムル事

第三十六條

總會ハ臨會ノ資格ヲ有スル株主ノ員數三分一以上ニ滿タサレハ議事ヲ開クヲ得ス

若シ三分一以上ニ滿タサルヲ以テ開會スルヲ得サルハ三十日以内ニ於テ社長ヨリ第二回ノ招集ヲ公告スル

シ第二回ニ於テハ臨會人員ノ多少ヲ論セシ議事ヲ開クヲ得ルモノトス

但株主ノ請求ヲ以テ開キタル總會ニシテ此定員ニ滿タサルハ其議案ヲ廢棄シ第二回ノ招集ヲナスヲ得ス

第三十七條

總會ニハ社長ヲ以テ議長トス社長事故アレハ取締役之任ヲ取締役事故アレハ臨席株主中ヨリ之ヲ撰舉スルモノトス

第三十八條

總會ニ於テハ臨席ノ株主過半數（投票）ノ同意ニ因テ可否ヲ決ス若シ可否同數ナレハ議長之ヲ決ス可シ

第三十九條

事故有テ親ラ總會ニ臨

席スル能ハサル株主ハ他ノ十株以上所有ノ株主ニ投票ノ權ヲ委任スルヲ得尤モ其委任状ヲ本社ニ差出ス可シ

第四十條 本社ノ役員タル者ハ他人ノ代人トナリテ投票スルヲ得ス

第四十一條 總會ニ於テ發言投票ノ權ハ各其所持セル株數十株毎ニ一己ノ投票ヲ為スヲ得然レ氏一人ニシテ二十五以上ノ投票ヲ為スヲ許サス

第六章 雜則

第四十二條 本社ヨリ政府及ヒ公衆ニ對スル重大ノ契約書ニハ社長理事ノ捺印ヲ要スル者トス

第四十三條 本社ノ株主ハ本社ノ事務取扱時間ニ於テ事務ニ差支無之片ハ何時クモ簿冊ヲ閲覧スルヲ得ヘシ

第四十四條 本社ヨリ総株主ニ通報スル事件或ハ世上ニ公告スヘキ事件ハ毎日刊行ノ新聞紙ヲ以テ公告ス可シ

右之條々發起人ノ衆議ヲ以テ相定メ候其證據トシテ各記名調印致シ候也



三重縣伊勢國桑名郡  
飛馬所十三番地士族  
發起人 佐藤義一郎  
同縣同國同郡同所十五番地  
平民

同 諸戸 清 六

同縣同國員弁郡北大社  
村廿四番地平民

同 木村 誓太郎

同縣同國三重郡濱田部  
四十四番地平民

同 三輪 猶作

同 同縣同國同郡四日市市仲細  
屋所三番地平民

同 同縣同國同郡日永村  
廿六番地士族

同 北岡 忠四郎

同 同縣同國同郡室小部  
十番地平民

同 伊 敏 傳七

同 同縣同國同郡同村三十  
五番地平民

同 伊 敏 小左工門  
同縣同國桑名郡桑名

魚所老當地士族

同

西却 徳右工門

日縣日國日郡桑名片所  
四十三當地平民

同

加 五治郎七

日縣日國三重郡四日市  
川原所廿三當地平民

同

山中傳四郎

日縣日國日郡四日市  
中納屋所五十二當地平民

同

九鬼 致七

日縣日國日郡四日市

同

森寺 寄壽

下新所或十三當地平民  
日縣日國日郡四日市  
濱所十二當地平民

同

田中 武兵衛

日縣日國同郡四日市  
南納屋所十一當地平民

同

吉田 伊兵衛

日縣日國桑名郡桑名取馬  
所十八當地平民

同

下 軍 貞 吉

日縣日國桑名郡桑名  
北所三當地平民

同

同縣同國同郡兼名取馬所

十三支地 平氏

二井 與吉

同

同縣同國朝明郡豐田

一色村吉富地 平氏

大塚八郎兵衛

同

同縣同國安濃郡津極座所

二百七十七畝地 平氏

後五仁兵衛

同

岐阜縣美濃國石津郡

高須村三畝地 平氏

吉田 耕平

同

同

滋賀縣近江國滋賀郡  
大津白玉所四十八畝地  
平氏

森 彌三郎

代印 三輪 猶作

同

同縣同國神崎郡  
川並村

塚 奉定右工門

代印 塚 奉定次郎

同

同縣同國愛知郡小田  
荻却平氏

小林 吟右工門

代印 小林 吟次郎

同 日縣日國神等郡熊登  
川却

阿部市郎兵衛  
代印小林吟次郎

同 日縣日國日郡日所  
平氏

阿部市太郎  
代印小林吟次郎

同 大坂府左区高麗橋通二目一当地  
阪田傳三郎  
代印流澤堂一

同 日府南區糶谷在所  
廣瀬宰平

代印流澤堂一

同 日府東區中ノ島四丁目  
外山修造  
代印流澤堂一

同 日府日區平野町四丁目十三当地  
松本重太郎  
代印流澤堂一

同 東京府麻布区廿八当地  
林賢徳

同 日府深川區西大工町  
十一当地

同 日府日區清住町十回当地  
三野村利助

同

本却正幹

日府芝区芝之公園地五十九号

同

堀

代遠武秀行

基

日府荏原郡北品川宿  
三百十二番地

同

益

回

孝

日府南葛飾郡小梅村七十七番地

同

小宮信史

日府日本橋区本枝木所  
二丁目二番地

同

久原庄三郎

日府京橋区銀座二丁目七番地

同

大倉喜八郎

日府深川区葛年所五番地

同

清沢喜作

日府本所区千草所四十二番地

同

川崎八右卫门

日府麹町区駿河臺北甲賀所  
四番地

同

西却彦四郎

日府京橋区銀座四丁目一番地

同

森村市右郎

日府芝区濱松所二丁目七番地

同

子安峻

京都府上区第廿八組従行者

同 町三百六十畝地  
阿部 善右郎  
代印 小井 吟次郎

東京府多摩区築地二丁目  
廿五畝地

同 川崎 正藏  
同 日野区築地三丁目六畝地  
原 六郎

同 日野区本橋区十綱町四丁目  
八畝地

同 日野区河区福住町四番地  
安田 善四郎  
同 法澤 栄一

同 日野区陶所区永田町二丁目  
十五畝地

吉井 友實  
代印 林 賢徳

同 京都府下京区第十八組  
徳葛所

高木 文平  
代印 三輪 雅作

株  
主  
人  
名  
簿

一金九拾九萬貳千圓

託

發起人負擔額

右名面

森	子	川	原	安	廣	外	松	浩	吉
村	安	崎	田	瀨	山	幸	澤	井	古
市	左	左	善	宰	修	重	榮	友	實
右			四	平	造	右	一		
郎	俊	藏	郎	郎	郎	郎	郎		



阿部 彦右郎  
 森 三郎  
 阿部 市右郎  
 阿部 市右郎  
 小林 吟右卫门  
 吉田 耕平  
 吉田 仁兵衛  
 后藤 五郎  
 杉本 侯爵  
 二井 与吉  
 下里 貞吉  
 伊豆 治郎  
 伊豆 十左卫门

塚本 定右卫门  
 西村 幸四郎  
 川崎 八右卫门  
 法澤 喜八郎  
 大倉 喜八郎  
 久原 三郎  
 小宮 信夫  
 益田 孝基  
 堀部 正幹  
 三野 利助  
 林 賢徳  
 飯田 傳三郎

一金五拾萬八千円

株主募集額  
右名商

深川 亮造  
遠武 秀次  
杉村 甚兵衛  
淺原 治兵衛  
小原 徳五郎  
山中 林之助  
今村 清之策  
後本 文善  
志本 善平

高木 文平

伊藤 藤傳  
松尾 忠四郎  
稻葉 三右衛門  
吉田 伊兵衛  
田中 武兵衛  
森寺 可壽  
九鬼 敏七  
山中 傳四郎  
三輪 猶作  
本村 誓吉郎  
諸戶 清六郎  
佐藤 義了郎  
西村 徳右衛門

山 俾 廣 竹 森 橋 加 竹 岩 味 山 九 六  
 口 後 瀨 内 瓜 藤 内 田 岡 中 鬼 田  
 助 喜 與 彌 純 宗 忠 文 彦 又 原 文 子  
 九 三 左 兵 二 右 八 五 八 三 九 郎  
 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎

車名考

田 鈴 渡 川 安 秋 西 杉 諸 伴 奉 佐 水  
 嶋 本 邊 村 達 田 川 野 戸 飯 間 藤 谷  
 信 善 治 右 常 弼 左 定 伊 米 孫 弘 三 治 兵 政  
 夫 三 門 衛 吉 門 郎 門 郎 門 郎 郎 郎 郎 郎

此草縣  
 田中半兵衛  
 山口喜七  
 佐伯又太郎  
 吉田常吉  
 須田葛右衛門  
 渡邊次右衛門

美濃國垂井伊勢至四日市間新  
 設鐵道敷地測量儀存上中  
 今設美濃至垂井及伊勢國四日市  
 鐵道敷地地方及京阪有志  
 者請戶情六外四拾八名月系長既後  
 幸而申省上道並請以官於又  
 該缺是敷地測量之義於誠之直  
 此系敷地測量之通陽重古  
 年功極敷之政系也於添山中  
 上中疏也

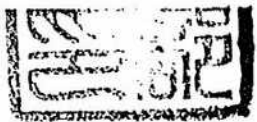
明治十七年四月十日 三重縣令山本邦定 宣

工部卿儀本意以啟

新設鐵道敷地測量之儀也  
本月五日付可於勢州四日市  
陳州垂井近鐵道敷地測量  
一應測量仕所先以右鐵路敷地  
之義工部者於於所管該工部  
下度旨即願申上置候  
有之狀同何章同者  
被申下所山般奉追願也

明治十七年四月十日

三重縣伊勢郡三幸郡濱田村  
田原四富地平民



送三六号

此道者有第四拾九號ヲ以  
致進達此四日市線ヲ以  
有取急手紙之付奉書之  
書類ハ取急手紙之付奉書之  
軍出陣別紙寫之付奉書之  
換去身中及以休來

明治十七年五月

三都寺記及林等

内閣書記官

中

三重縣令岩村定高殿

三輪 猶作

三重縣伊勢郡桑名郡桑名松馬  
所始三苗地士屋

佐藤義一郎

東京府津川區福住所  
四苗地手氏

法澤榮一



三六八号

當省第四於九號一四日市錢道布  
設之義何由指合、附箋ヲ以附屬  
書款官考通可、單出省速申  
越之扶得共右書款中、甲號  
分ハ此ハ日第三六二號一、以爲出  
至申、扶了乙號、分、更、速  
申、此、申、其、也、  
明治十七年五月九日

工部書記官

内一各書記官  
速中

濟

工部省上申四日市鐵道布設之事

右謹<sub>テ</sub>奏<sub>ス</sub>

明治十七年五月六日

太政大臣三條實美

左大臣熾仁親王

參議大木喬任

參議山縣有朋




大友宮



秘

乙卯五二號

明治十七年五月五日

大臣 

内閣書記官 

工部省上甲四日市鐵道布設之事  
右田儀、供

參議

山縣 



伊藤 

西郷 

山田 

天田 

福岡 

松本 

川村 

佐木 

- 參議 伊藤博文 
- 參議 西郷從道 
- 參議 井上馨 
- 參議 山田顯義 
- 參議 松方正義 
- 參議 川村純義 
- 參議 福岡孝弟 
- 參議 佐木高行 

明治十七年五月二日

第一

掛卷識

書記



身紙工部省上申留申識之布設、裁ハ、  
内務省、向ニ對シテ、中務省、一、趣、有、之、如、ト、般、  
地方、ハ、系、伍、有、志、者、數、十、名、發、起、下、ナリ、一、會、  
江、ノ、組、織、ハ、  
道、布、設、義、出、願、セリ、然、レ、  
勝、意、見、ハ、  
二、京、極、  
三、  
四、

致願港に通るに既成の鐵道に聯絡して其欠  
 線を補ふモノを以て此線路布設の功を著す  
 以上既成鐵道と著し其効用を益かり疑ひナク  
 又是れの中仙道鐵道布設に要する材料  
 物品運搬の便りあり其息大なりより決線工の  
 利益計上は許多し利益は一キ一カあり其に  
 銀八人氏に設け候より断我直設記工を成  
 度其費用は如キハ中仙道鐵道建築資金を  
 一部に以て之を充れモ亦此物品等運搬の便  
 あり候るが為に利便所を全額に以て鐵道に充

こより此線にかけんモノは資金を増す事あり  
 此他直設に就ては鐵道は先辨説通  
 功に直設起工の義を以て海峯の上宿  
 通に裁決を成るは同様に其の調子  
 高裁決也

水橋合葉

同、超直設起工の事は往々多し其經費  
 中仙道鐵道建築資金の中より支辨は裁  
 決に依りて其の旨を以て

四橋大橋云々

通保例文 親展

存照

内務省に於て、明治二十七年二月九日

付、越後子分、海濱に於て、ハキ、若、津、地、振、立、

あり

第五拾四号

信越鐵道會社設置之義

ニ付同

新潟潟長野兩縣下人民ヨリ願出候  
信濃國上田驛ヨリ越後國直江津  
迄及々同所ヨリ新潟港ニ至ル、向ニ民  
設鐵道布設之義夫々調査候  
處右上方ヨリ直江津ニ至ル、線路  
ハ先般經高裁候四日市線路ト同シ  
リ中仙道幹線ヨリ一ツノ海港ニ連絡  
スル所、不可缺要線トモ可申且ツ東  
京ヨリ直ニ北越ノ海濱ニ達スルヲ得ル  
ノ本路ニ有之加々兩縣下人民ノ願望

甲五九

第一局